

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぷれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。



自動貸出機が利用できます

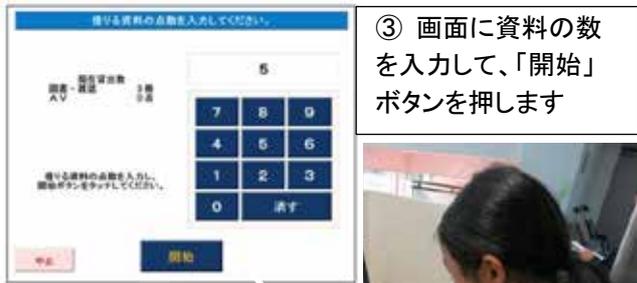
中央図書館 1階フロアに、4台の自動貸出機が設置されました。本棚に並んでいる資料なら、カウンターに並ばずにご自身で貸出ができます。ぜひお試しください。（CD、予約した資料、一夜貸し等はカウンターで扱います。）わからない点があったら気軽に職員にお尋ねください。ご説明いたします。



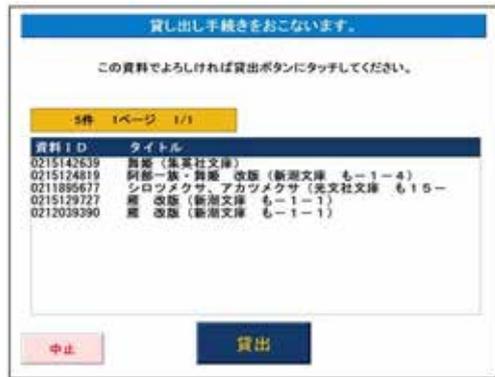
① 共通利用カードを赤い丸の位置にかざします



② 借りたい資料を赤い丸の位置に置きます



③ 画面に資料の数を
を入力して、「開始」
ボタンを押します



④ 数とタイトルを確認、よければ「貸出」を押します
 ⑤ レシートの「印刷」または「不要」を押して完了です



中央図書館カレンダー

7月							8月							9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

開館時間

火～日 10:00～19:00
 月・祝・休日 10:00～17:00



は、中央図書館休館日です。

は、17時で閉館する日です。

～書を調べ、町へ出よう～

新元号令和 - 元号の由来に迫る

2019年5月1日に令和に改元されました。元号はこれまで中国の古典から採用されてきましたが、令和は初めて日本の古典『万葉集』に由来するとして話題になりました。

【令和の由来】

令と和の二文字は、万葉集 巻第五、『梅花の歌』から引用されています。

730年、大宰府の長官である大伴旅人は官人・知人達と宴を開き、春の訪れを歓迎して梅を題にした歌会をはじめます。その序(じょ)(※前書き)にこう記されています。

初春の令月にして、或淑(よ)く風和ぎ、梅は鏡前の粉(こ)を披(ひら)き、
蘭は珮後(はいご)の香を薰(かを)らす。 ※ 原文に読みを加えて記載しています。

「悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め、令和に決定いたしました」(内閣総理大臣談話より抜粋)

【平成以前の主な元号の由来】

平成

『史記』の「内平外成」と、『書経』の「地平天成」より、国の内外、天地共に平和が達成される、という意味が込められています。

昭和

出典は『書経』の「百姓昭明、協和萬邦」で、国民の平和と世界の共存繁栄を願う思いが込められています。

大正

『易経』の「大亨以正、天之道也」より、正しく政治を行うことが天道になう、という内容です。

明治

『易経』の「聖人南面而聴天下、嚮明而治」より、天子が南※に向かって声を聴けば、天下は明るい方向に治まる、という意味です。

※占(卦)で万物が盛んになる方角

【元号に関するエピソード】

明治以降は「一世一元の詔」により天皇一代に元号は一つですが、以前は即位のほかにも特定の干支を迎えた年や、地震・疫病・飢饉など災いが起きると、厄落としのように改元を行いました。逆に「元慶」のように、白い雉が献上され、おめでたくいい事の起きる兆しである、として改元した例もあります。

平安時代の「永祚」、「久安」はハレー彗星の出現(凶事の前触れ)による改元と伝えられています。室町時代の「応仁」は、幕府の力が衰え内乱が多発した事で改元しましたが、状況はさらに悪化し、応仁が3年で終わっても応仁の乱は10年以上続きました。

地震を機に元禄から改元した「宝永」は、津波で大きな被害が出た宝永地震に続き、富士山の噴火(宝永大噴火)、宝永の大火と、災いの方で名を残してしまいました。

～ 万葉の^{こみち}小径を歩いてみよう ～

それでは、万葉集にちなんだ道を訪ねてみましょう。

世田谷区にはかつて烏山川という川が流れていました。

現在は暗渠化され、「烏山川緑道」という遊歩道として整備されています。千歳温水プールあたりから三宿の北沢川合流地点までの約7km、橋のあった場所にはその名前が標されています。

“万葉の小径”はその一部で、谷中橋と葦橋の間に位置し、鷗友学園の前からはじまります。

山吹、あせび、櫨など70種余の草木があり、それにちなんだ万葉の歌を札で案内しています。

距離にしてわずか150mの万葉集の世界、お出かけのついでに散策してはいかがでしょうか。



交通：東急世田谷線宮の坂駅徒歩4分または小田急線経堂駅徒歩12分



【やまぶき】

●万葉呼名 やまぶき

山吹は 撫でつつ生さむ
ありつつも 君来ましつ
かざ 挿頭したりけり

(20・四三〇二) 置始長谷



【あせび】

●万葉呼名 あしび

磯かげの見ゆる池水
照るまでに咲ける馬酔木の
散らまく惜しも

(20・四五―三) 甘奈備伊香



【けやき】

●万葉呼名 つき

とく来ても 見てましものを
山城の 高の槻群
散りにけるかも

(3・二七七) 高市黒人

今回調べた地域資料等（いずれも中央図書館に所蔵しています。）

- ・萬葉集 二（新潮日本古典集成）新潮社 【9111.2ま】※万葉集はこの他にも所蔵があります
- ・平成から大化まで全元号解説 河野浩一著 KADOKAWA 【2100か】
- ・元号-年号から読み解く日本史-(文春新書 1156) 所功、久禮旦雄、吉野健一著 文藝春秋 【2100と】
- ・易経 下（新釈漢文大系）明治書院 【9280し】
- ・大化から令和まで日本の元号大事典 日本の元号大事典編集委員会編著 汐文社 【J21茶】
- ・地域の歴史と四季を歩く経堂・桜丘・烏山川緑道-健康マップ-4
いきいきのびのび世田谷健康プラン企画会編
世田谷区世田谷総合支所健康づくり課 【GA2100】

平成31年度 「子ども読書の日」記念講演会 小林快次先生「最新恐竜研究」

4月13日(土)

NHK子ども科学電話相談でも人気の小林^{よしつぐ}快次先生をお招きし、恐竜の化石発掘調査についてお話いただきました。

小林先生は、毎年新しい恐竜研究のためにカナダ・アラスカ・モンゴル・北海道と世界をまたにかけて調査を行っています。今回はその様子を、最新の写真や動画とともに話してくださいました。次第に化石が現れる発掘作業の様



子や、恐竜の足跡の写真に、会場はワクワクした雰囲気になりました。

質問コーナーでは、子どもたちを中心に質問の手がたくさんあがりました。一人ひとりの質問にユーモアたっぷりにお答えいただき、あっという間の講演会でした。

アンケートでは、「博物館でただ眺めていた恐竜が、大変身近になってよく解りました。大変感動しました」「恐竜博士になりたいと言った息子が、本当に博士になった人のお話を聞くことができよかった」といった感想をいただきました。



『ぼくは恐竜探険家!』
(講談社)

第13回世田谷区子ども読書活動推進フォーラム 2月16日(土) 「子どもの読書離れをくい止めよう」

第1部 講演：酒井邦嘉氏(東京大学教授)

「子どもの読書離れをくい止めるには、まず大人から」。言語科学の視点から、活字が脳に与える影響や、子どもにとっての読書の重要性を、様々なエピソードを交えながらわかりやすくお話してくださいました。和やかな雰囲気の中、参加された方々がとても熱心に聞き入っていらっしゃいました。

第2部 区立小学校における取り組み

報告：田代瑞恵(世田谷区立若林小学校教諭)

世田谷区立若林小学校で実践されている「読書旬間」や「アニメーション」など、読書に関するたくさんの取り組みについて、報告をしてくださいました。

第3部 質疑応答・意見交換



第1部 講演の様子

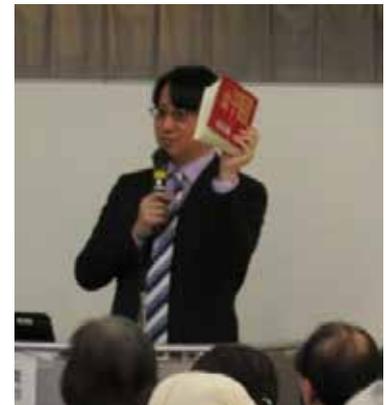
ご参加いただいた方々からは「読書の大切さ、親・大人の読書離れをくい止めるのが重要ということに改めて気付かされた。」などの感想をいただきました。

今回のフォーラムにつきまして報告誌を作成しました。図書館ホームページにも掲載しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。

日本初の学者芸人、サンキュータツオさんは約230冊を所有する国語辞典コレクターでもあり、「広辞苑 第七版」サブカルチャーの項目の執筆にも協力されています。

国語辞典は「小型」「中型」「大型」に分類できてそれぞれに役割があり、同じ言葉でも出版社の編集方針によって様々な表現が用いられ、個性が現れるそうです。具体的に「恋愛」「りんご」「右左」などを引用し楽しく解説され、「個性を知った上で自分に合った国語辞典を探してほしい」と話されました。また、インターネットで言葉の意味を調べるのは手軽で利便性は高いものの、出典元の辞典を把握できない可能性や、一部の辞典の説明を正解だと思い込む危険性を指摘されていました。

ユーモアにあふれた講演で終始笑いが絶えず、子どもから大人まで幅広い世代の方に楽しんでいただきました。アンケートでは、「メチャメチャ面白かった!!」「辞典を選ぶにあたってこんなに意識高く選んだことがない」「辞典1冊買います」などの感想がありました。



講演中のサンキュータツオさん

**「なぜ？なに？だいはっけん！
かがくのおはなし会」** 4月27日（土）

「子ども読書の日」を記念して、知識絵本の読み聞かせや科学の実験を行いました。

読み聞かせでは、身の周りのものの変化を描いた『かげ』（フレーベル館【J42 緑】）や『水は、』（福音館書店【J45 緑】）など3冊を読みました。

科学の実験では、ペットボトルに映った絵が逆向きに見える「ペットボトルレンズ」、黒い筒を使って封筒の中の紙の文字を読む「透視マジック」を行いました。

最後は子どもたちも透視に挑戦して、びっくり体験を楽しんでいました。



透視マジックの実験

【参考図書】『ちょこっとできるびっくりあそび』立花愛子・佐々木伸著（偕成社【J40 緑】）、『でんじろう先生のおもしろ科学実験室』（新日本出版社【J40 緑】）

第3回 情報検索講座

「インターネットで図書館の本や雑誌を探そう！」 2月28日（木）

区立図書館などのホームページで本や雑誌を探す方法やそのコツについて、講座を開催しました。

図書館員による説明のあと、実際にパソコンを使って検索体験にチャレンジ。本のタイトルの一部から探



す、複数の条件で絞り込む、都内の公立図書館の所蔵を調べるなど、検索の基本から応用まで、幅広く演習を行いました。和やかな雰囲気のもと、参加された方々からご好評をいただきました。

図書館ホームページには詳しい検索方法が紹介されています。ぜひご活用ください！

雨の降る日は気をつけて！



本の大敵『水』

— 図書館 からのお願いです —



左のショッキングな写真。「水濡れ」のためページがよれたり、くっついたりして読む事ができなくなってしまった図書館資料です。黒カビが発生したものもあります。この状態では、次の方が利用する事はできません。

そのため、水濡れにしてしまった方に、同じものを購入する等して、現物弁償していただく事になります。

どうして、こんな状態になってしまうのでしょうか？
図書館の本をお風呂に持ち込んで読んだわけではありません。うっかり飲み物をこぼしてしまった！なんて事もあります。少しの工夫で防げる事もあります。

持ち歩く時は、ポリ袋に入れておくと安心です

「カバンに入れていたのに…」 近頃、多い『ゲリラ豪雨』！
カバンに入れたお財布の中のお札まで、ビショビショ…という経験はありませんか？本も同様ビショビショに。予想外の出来事です。予め本を写真のようなポリ袋に入れておけば防ぐ事ができます。

この他にもよくあるのが

- ・冷えたペットボトルの水滴（結露）
- ・リサイクルに出そうとした空ペットボトル内の水気

図書館の本と一緒にしていたため、水濡れ状態に。

本は水気があるものと別にするとか、防水性のある袋に入れるとかする事で防げます。



お気に入りの店のショッピングバックを利用しています。

早めに図書館にお持ちいただければ修理できる場合もあります

濡れた部分が少なく乾く前であれば、図書館で専用の道具を使って、引き続き利用できる本に修理します。

小さなお子さんがページをやぶってしまった時も、まず、図書館職員にご相談ください。状態によりますが、専用のテープ等で修理できる場合があります。その際には、やぶれた部分をそのままにして、本と一緒に持ちください。セロハンテープでの修理はしないでください。セロハンテープは時間の経過により、劣化し変色します。図書館資料は長期保存しますので、修理は図書館にお任せください。

※修理によって利用可能なものにできるかどうかは、その本の状態によります。現物弁償していただく場合もありますので、予めご承知おきください。



修理道具です。

みなさまが気持ちよく利用していただけますよう、ご協力をお願いいたします。



新着図書案内



『秘密をもてないわたし』

ペニー・ジョエルソン著 河井直子訳
(KADOKAWA)

14歳のジェマは重度の脳性まひ。自分の考えや気持ちを伝える術がありません。それゆえ周りの人には、他人に言えない事を打ち明けやすい存在のようです。でもジェマはたくさんの事を感じ、考えています。



ある日介護ヘルパーのサラは、新しい恋人がいるのに元カレとも続いている事を話します。それどころか殺人を犯した事を告げる人物まで現れます！周りには好青年とされているこの男には、二人だけになるとジェマに侮蔑的な言葉を投げつける裏の顔があります。殺人は事実なのでしょうか？

とうとうジェマが恐れていた第2の事件が発生します。 【請求記号 J赤し】

『“今”からできる！日常防災』

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟監修
永田宏和監修（池田書店）

災害を特集した報道番組を見た後、改めて我が家の防災グッズを点検しながら「これで大丈夫かな？他に必要なものは無いかな？」と悩むことはないですか。



本書はタイトルのとおり、日常生活で心がける災害対策を多岐にわたり解説した実用書です。ボーイスカウトらしく、火のおこし方や、水の確保の方法まで紹介されています。

どれほど備えても災害への不安は消えませんが、備えや知識の蓄積は自信を持った行動につながり、きっと被害を軽減するでしょう。図書館では他にも災害対策の図書をたくさん所蔵しています。どうぞご利用ください

【請求記号 3693い】

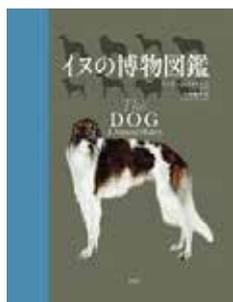
『イヌの博物図鑑』

アーダーム・ミクローシ編 小林朋則訳
(原書房)

現在多くの人には、イヌは飼い主との間に深い絆を結ぶ、動物の中でも特別な存在、という印象があると思います。

本書はイヌについて、独自の進化を遂げた動物としての側面と、人間の友という面の両方から描いています。

イヌが様々な視点から考察されているのに加え、イヌの感覚・思考・性格等について科学的研究から得られた最新の知見が盛り込まれており、イヌが好きな方もあまり好きではない方も本書を読めば理解が深まり、イヌの魅力がきっと伝わるはずで



【請求記号 6456い】

『戦没画学生いのちの繪100選』

窪島誠一郎文 無言館編（コスモ教育出版）

長野県上田市に「無言館」という、戦没した画学生の絵画を収集している美術館があります。

本書はその所蔵のうち100点を掲載した画集です。

館主の窪島氏は前書きで「戦争という絶対悪を前にした若者たちがどう生きたかをつたえる青春の記録である」と述べています。

本は見開きで、右頁に作者を紹介する文、左に作品が載っています。何気なく故郷の風景・日常・家族や友人を描いた絵画は、現在も生き生きとした命の輝きに満ちて、私達に語りかけてくるものばかりです。あなたの心に残る作品を見つけてみてください。

【請求記号 7208せ】





図書館からのお知らせ♪



学校おはなし会ボランティア講座(初級)

学校などでおはなし会ボランティアをしている方・これから始める方が対象です。

日時：講義 10月4日(金)、11日(金)
実習 3日間(各会場で異なります)
*いずれも午前中

会場：教育センター及び区内5会場

*申込方法など詳細は、「区のおしらせ9月1日号」やちらし(8月配布予定)をご覧ください。

お子さんから大人の方まで楽しめる秋の図書館コンサート

日時：10月14日(月・祝)
午後5時30分～6時30分
会場：中央図書館1階カウンター前
出演：ぴっこらなーべ



♪東京芸術大学出身の同期3人で結成されたユニット。根本真澄さん(ソプラノ)、温井裕人さん(バリトン)の息の合った重唱に平田もも子さん(ピアノ・編曲)が華を添えます。申込は不要です。

落語と読書

入船亭扇治さんによる、落語の独演会です。
日時：9月16日(月・祝)午後2時～4時
会場：教育センター3階「ぎんが」
*詳細は「区のおしらせ8月15日号」やちらし(8月配布予定)をご覧ください。

こわーいおはなし会

夏にぴったりのこわーいお話がいっぱい!
日時：8月21日(水)
午後3時30分～4時15分
会場：教育センター「織姫」
*詳細はちらしをご覧ください。



文字・活字文化の日記念講演会「朗読と音楽で楽しむ散歩道」

小林聡美さん(俳優)と園田涼さん(ピアニスト)をお招きします。
小林さんの講演のほか、朗読と音楽のコラボレーションをお楽しみください。
日時：10月6日(日)午後1時30分～4時
会場：成城ホール(世田谷区成城6-2-1)
申込：先着300名。受付はせたがやコールにて。
*詳細は「区のおしらせ9月1日号」をご覧ください。



各イベントの情報は図書館ホームページにも掲載しております。

編集後記

今回読書マナーについて取り上げましたが、ちょっと嬉しかったお話を2つ。
◇大阪に旅行した際、電車内で本を読む高齢の方を見ました。見ると堺市の図書館のもので、戦前の出版かと思うほど古色蒼然とした本でしたが、とても大切そうに開いていました。図書館職員としては借りた本を大事する気持ちに感謝するとともに、それ故に本も長く提供できるのだ、と感じました。
◇3年間皆さんの間を廻ってきた『小説版 君の名は』(新海誠著 KADOKAWA【B0しま】)が書架に戻ってきました。納品後アニメが大ヒットして百人近くの手に渡り、どれほどくたびれてきたかと思ったらこれがとても綺麗!読者は若い方が中心でしょうか、皆さんが丁寧に読んでくれてこちらも嬉しくなります。図書館の本は皆さんの共有の財産。大切に扱っていただいて本も喜んでます!